

稲作情報

No.8

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

成熟期早まる！ 籾の黄化程度を確認し適期刈取を徹底

1 気象経過と生育状況

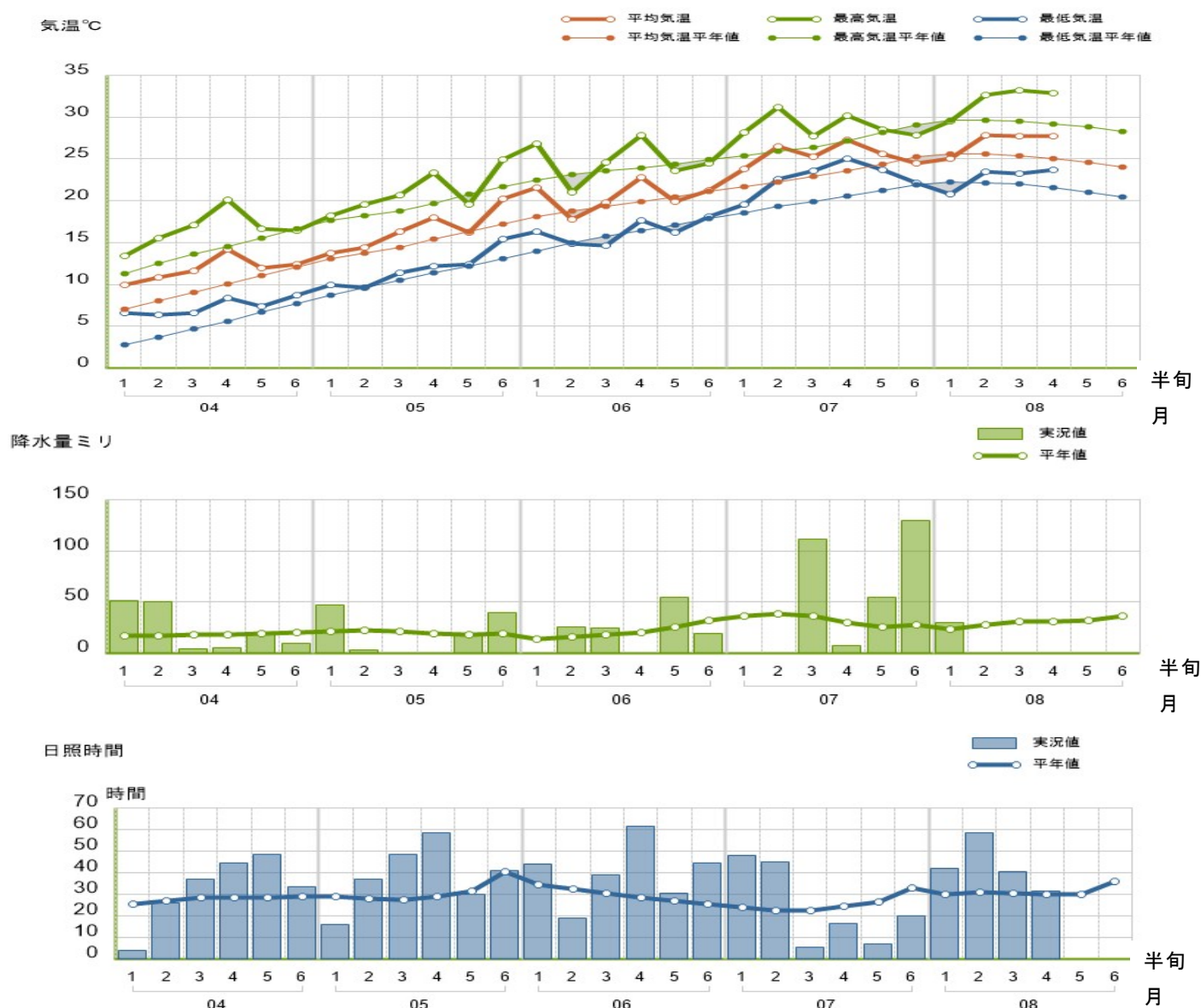


図1 気象経過と平年値 (アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用)

〈概況〉

水稻定点調査ほ(あきたこまち 10 地点平均)の出穂期は7月 26 日で平年より4日早くなりました。

穂揃い期の定点調査結果では、一穂粒数は 70.2 粒/穂(平年比 91%)と少なくなりましたが、穂数が 463 本/㎡(同比 112%)と多かったため、㎡当たりの籾数は 32.4 千粒/㎡(同比 102%)とやや多くなりました。

出穂期が早く、それ以降は高温多照で推移しているため、成熟期は早まると予想されます。

表1 水稻定点調査結果(8月上～中旬実施)

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
穂数	463本/㎡	112%	120%
一穂粒数	70.2粒/穂	91%	88%
㎡当たり籾数	32.4千粒/㎡	102%	106%
葉数	13.0葉	+0.1葉	-0.2葉

※ 管内定点ほ場 10 地点(あきたこまち)の平均値

2 斑点米対策を徹底しましょう！

(1) 斑点米カメムシ類の防除対策

8月21日に秋田県病害虫防除所から、**斑点米カメムシ類に関する防除対策情報第8号が発表されています**。県中央部及び県南部における斑点米カメムシ類の水田内でのすくい取り数は少ない～平年並ですが、県北部では水田内雑草が多いほ場を中心にすくい取り数が多くなっています。

水田内雑草が多いほ場では水田内の斑点米カメムシ類の発生が多いほ場では斑点米被害が多くなるおそれがあるため注意してください。

- 1) 水田内に出穂したホタルイなどのカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場などでは、水田内の斑点米カメムシ類の発生量が多くなると予想されることから、出穂期10日後の薬剤防除に加えて、出穂期24日後頃に畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布剤(エクシード剤またはキラップ剤)を散布します。

薬剤はエクシード剤(収穫7日前まで)またはキラップ剤(収穫14日前まで)ですが、本年は収穫時期が早まると予想されることから、薬剤の使用時期(収穫前日数)には十分留意してください。

- 2) 畦畔・農道及び雑草地の草刈りは、稲の収穫2週間前以降に行いましょう。

3 登熟を向上させる水管理

落水時期が早いと、葉色の低下、葉の枯れ上がり、根の機能減退等により登熟が妨げられ、収量、品質、食味の低下を招くことが多いため、早期の落水は避けましょう。出穂後30日間は間断かん水を実施し、土壤水分を保ちながら稲体の活力を維持し、登熟の向上に努めます。

また、フェーン現象等で乾燥した風が強い場合は、湛水状態を保ち、蒸散による稲体の水分消耗を軽減させましょう。

4 刈り遅れによる品質低下に注意しましょう

本年は出穂期が平年より早かったことに加え、出穂期以降も高温多照で経過していることから、刈り取り適期は早まる見込みです。

刈り取り適期は積算気温のほか、積算日照時間も判断目安とし、最終的には籾の黄化程度を確認して判断します。

特に本年のような高温年は胴割れ米が発生しやすい傾向にあるため、刈り遅れに注意しましょう。

○積算気温

出穂期翌日からの日平均気温の積算値が早生品種(あきたこまち等)で950～1,050℃、中生品種(ひとめぼれ、めんこいな、ゆめおぼこ等)で1,050～1,150℃となる日を刈り取り適期の目安とします。また、積算気温が早生品種で1,100℃、中生品種で1,200℃を越えると、立毛中でも胴割れ米が急増するため、刈り遅れにならないよう注意します。

※期間と地点を入力すると積算気温を算出できるWEBサイトもあります。「積算気温」で検索！

○積算日照時間

あきたこまち(収量基準570kg/10a)の場合、出穂期翌日からの積算日照時間が200時間に到達した日を目安とします。

○籾の黄化程度

籾の黄化程度が90%に達した時期を目安とします。

表 アメダスデータにおける積算気温到達日予測

アメダス 地点	積算気温	出 穂 期			
		7月22日	7月28日 (盛期)	8月5日	8月10日
秋田	950℃到達	8月28日	9月3日	9月12日	9月19日
	1,050℃到達	9月1日	9月8日	9月17日	9月24日
	1,150℃到達	9月6日	9月12日	9月22日	9月29日
男鹿	950℃到達	8月31日	9月6日	9月15日	9月22日
	1,050℃到達	9月4日	9月11日	9月20日	9月28日
	1,150℃到達	9月9日	9月16日	9月25日	10月4日
大潟	950℃到達	8月30日	9月6日	9月12日	9月21日
	1,050℃到達	9月4日	9月11日	9月20日	9月27日
	1,150℃到達	9月8日	9月15日	9月25日	10月3日
アメダス 地点	積算気温	出 穂 期			
		7月22日	7月28日 (盛期)	8月5日	8月10日
五城目	950℃到達	8月30日	9月6日	9月15日	9月21日
	1,050℃到達	9月4日	9月10日	9月20日	9月27日
	1,150℃到達	9月8日	9月15日	9月25日	10月3日
岩見 三内	950℃到達	8月31日	9月6日	9月15日	9月22日
	1,050℃到達	9月4日	9月11日	9月21日	9月27日
	1,150℃到達	9月9日	9月16日	9月26日	10月5日
大正寺	950℃到達	8月31日	9月6日	9月16日	9月23日
	1,050℃到達	9月5日	9月11日	9月21日	9月29日
	1,150℃到達	9月9日	9月16日	9月27日	10月5日

※8月19日までは本年の実況値、それ以降は平年値で試算

5 気象災害(大雨・台風)への対策について

8月20日に仙台管区気象台より発表された東北地方1か月予報(8/22～9/21)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並と予報されています。

今後も気象情報に注意するとともに、収穫までに台風や集中豪雨の発生が予想される場合は、強風や大雨による農作物への被害を最小限に止めるよう、事前に対策を講じましょう。

また、台風接近後におけるほ場の見回り等については、事故防止のため身の安全を確保してから行いましょう。

1) 事前対策

- ・収穫適期となっているほ場は、速やかに刈り取る。
- ・排水路、ほ場内排水溝などの点検と補修整備を行う。

2) 事前対策

- ・速やかに収穫作業が行えるよう、排水に努める。
- ・倒伏した場合は、稲株を引き起こし、穂を地表面から離して登熟の低下を防ぐ。
- ・倒伏や潮風害が起きた場合は、未熟粒や穂発芽が発生し、品質低下が懸念されるため、被害程度と籾の状況を見極めながら適期収穫に努める。被害籾は仕分けして乾燥調製を行う。

コンバインや乾燥機等の点検・整備を万全に行いましょう！

計画的な作業や安全確認の徹底により、農作業事故を防止しましょう！

◇次号は12月23日に総括版を発行予定です。